

# 市民伝言板

市民伝言板は、サークル会員の募集やイベント情報を掲載するコーナーです。みなさんからの投稿をお待ちしています。

注意事項▶①営利目的や政治活動、宗教関係のもの ②特定の人や団体のみを対象としたもの ③公序良俗に反するなど、行政広報の公共性、公益性を損なう恐れがあるものは、掲載できません。その他、申し込み方法など詳しくは、秘書課広報広聴係まで。

時とき 場ところ ¥会費・入場料など 定定員・募集人数  
申申し込み方法など 問問い合わせ先 対対象 他その他

## ふれあいダンスパーティー

自由参加で楽しくダンス。収益の一部を善意銀行へ預託。  
時 5月11日(日)午後1時30分～4時 場 中部公民館 ¥500円  
問 石川ただしさん(☎090<6338>3739)

## 安城阜月同好会花季展示会

緑豊かな公園の一角、華麗なさつきの観賞で心がいやせませす。  
時 5月24日(日)午後5時～6月1日(日)正午(夜間観賞可) 場 秋葉公園 問 佐藤士功さん(☎<76>6318)

## わくわく科学教室

「仮説実験授業」で楽しく実験をしながら科学を勉強します。  
時 5月～12月第2・4金曜日午後6時～8時 場 作野公民館 ¥1回1500円 問 山田芳子さん(☎<98>3776)

## 第30回記念 何有展

テーマ「純粋造形の探求」併催「戸田提山野外の書Ⅱ」  
時 5月14日(火)～18日(日)午前9時～午後5時(18日は午後4時まで) 場 市民ギャラリー 問 深津大超さん(☎<92>0588)

## 全国一斉あそびの日

「とんで はねて みんなであそぼう！」を開催します。  
時 5月25日(日)午前10時～午後3時30分 場 青少年の家前広場 ¥200円 問 山口孝英さん(☎<75>4146)

## フロイデ・ハモニー

懐かしい曲などの愛唱歌を皆で楽しく歌うメンバーを募集。  
時 毎月第1・3水曜日午後7時～8時50分 場 文化センター音楽室 ¥月額1000円 問 鈴木好江さん(☎090<8550>7472)

## 津軽三味線チャリティー演奏

雅會の風ノ雅による古典からオリジナリティー溢れる演奏会。  
時 5月17日(日)午後1時30分開演 場 市民会館リハーサル室 ¥1000円(収益より福祉施設に寄付) 問 雅會(☎0532<62>9896)

## フラダンス プア・ククイ

今、流行のフラダンスを体験しませんか。  
時 5月27日(日)午前10時～11時 場 安祥公民館 ¥1回500円 他 運動のできる服装、靴下着用 問 山田幸子さん(☎090<6591>0405)

## 社交(ダンス友の会)財団

健康と親睦のため楽しんでみませんか。ダンスの好きな人大歓迎。  
時 毎週木曜日午前10時～11時30分 場 総合福祉センター ¥月額3000円 他 講師▶塚本知予子氏 問 石川栄三さん(☎<99>1626)

## フェアトレード&エコロジー

参加型ワークショップで平和を考える国際理解講座。  
時 5月17日(日)午後1時～4時30分 場 作野福祉センター 対 中学生以上 ¥2000円(学割あり) 問 ぎたんじゃり(☎<98>2699)

## 花柳流 第23回政貴世会

長唄、鳴物の生演奏とともに日本舞踊をお楽しみください。  
時 6月1日(日)午前10時30分 場 市民会館 ¥3000円(全席自由) 問 花柳政貴世さん(☎<76>5727)

## 「五感で学ぶ安城」編集員募集

五感で安城を学び読本を作りましょう。  
時 自分が活動できる時 場 文化センター内生涯学習ボランティアセンター 問 生涯学習まちづくり企画人(☎090<9129>9222)

# ANJO 市民のひろば SQUARE

# サークル紹介

## 安城柔道クラブ ● 柔道で心と身体をきたえよう!

現在少年部は園児から中学生まで約90人で活動しています。卒業生には北京五輪代表の谷本歩実選手がいます。日々の練習は大変厳しいですが、その中で子どもは心と身体をきたえられ成長しています。保護者のみなさんと協力し青少年の健全な育成を目指したいと思います。見学・体験は自由です。ぜひ一度市体育館まで足を運んでください。

時 毎週火・木・土曜日午後6時～9時 場 市体育館 ¥月額2000円 問 友成和敏さん(☎<98>9411) 他 ホームページアドレス <http://anjo-judo.sakura.ne.jp/>



# 輝いてます

## 市史編さん事業に一貫して携わった 中嶋春雄さん(小川町)

学術的な内容や専門用語の多さから、一般的に「作るが読まないもの」といわれてしまう市史。しかし、今回の編さんにあたっては「学術レベルは落とさないけれど、市民が活用しやすい内容を」という方針を決めました。ただ、これ

は、編さんする者にとって非常に難しい、とんでもない話。例えば、原文の読み下しの一つをとっても、読み方が複数ある

ケースなどがあり、編さん事業は困難を極めました。なぜ、苦勞をしてまでそのような方針を立てたのか。その理由はおよそ40年前に発行した「先代」の市史にあります。

実は、わたしは「先代」の市史編さんにも委員として参加していました。この市史を刊行した後、市史を読む会が結成されるなど、市史をきっかけとした「歴史ブーム」が起きました。歴史を研究する市民団体ができたり、それぞれの町内の歴史をまとめる動きがみられるようになったり…。このよう

な現象は、全国的にも非常に珍しいことであり、きっかけとなる市史の編さんにかかわったわたし自身にとっても、非常にうれしい事でした。このような流れを受けて立てたのが今回の方針なのです。11年もの歳月を費やしてようやく完成した今回の市史。今は、一段落したところですが、これで終わりではありません。今後は、中学生でも理解できるようなジュニア版の市史や百科事典のような市史事典をつくってみたいという思いがあります。

